

特集

『1980年代への展望』(その1)

國際問題

世界の潮流

日本は、もう自分の利益だけを追うことは出来ません。世界を見渡す立場のことがあります。

では、國際状勢は今、どうなっているのでしょうか。今号では、まず現在世界の状況を把握する意味で、本学法學部教授、入江道雅氏にその概観述べて戴きました。

者プロフィール】
通雅(じゅうみやがた)

十九年東京大學卒業、
後アメリカのエール大

帰國後、NHK国際
「ニース解説」担
任。現在、外交評論家として

教授として「国際関
「外交史」「国際政治

、氏は昨年決成された

日本人権委員会（略称
人権委員会）の事務局
要職に就任され、現在

のことで、自由、人権得をめざして不屈の闘争を続ける人々との連絡を、民族独立の波は暗示してみようと思う。

（共産国内の
抑圧民族独立の徵候）

の諸潮流を概視し、そ
地が、戦後次々に民族独立
を達成し、未だに自らの民
はん通りの五王制を
いるが、一八四〇年
のウクライナ人を

の流れの将来を予測し、
その結果は、陸地面積の二・八倍
(三七九万平方キロ)、世界
の諸潮流の綜合とし、
は、少數派になるのはそ
して異民族のほう
に増加率が高く、ロシ



ノ述、中國は、第一次大戰後の西歐諸國はとも民族独立を示さざるに至つてゐる。しかし、敵対圧迫によつて訴へられてゐるから、共産團を興す民族独立の波が、どのくらいの期間で成果を挙げうるかなどといつてはなるべく正確ではない。ただ、これまでのところ、相当の期間と見てよい。今後、必ず、今後、必ず、中國は内部で、民族独立の問題を抱えるようになるだろうとううことはだけは確かである。

ソ連や東欧では、ソルジエニーツィン、サハロフをはじめ多数の政治批評家が殺された。ソルジエニーツィンもサハロフも、共産主義体制の中でそれに育つようプログラミングされ、して誰から逆説されたわけでもないのに、人間であるがゆえに、優れた人間であるがゆえに、左翼全然共産主義、左翼全体主義の悪に気付き、人間であることを求め、自由を求めて、不屈の闘争を開始したのである。

第三、共産主義支配地
域拡大の潮流

第三には、それにもわらず、現実には、戦前主義的では、一九三九年の陸地支配の「一・七・四六」世界人団体の「七・八号から、現在の六・五号まで」というように、その三四年間で地域拡大を拡大してきたというふうである。これらは、いわば、ある意味ともいって共産主義の「あらうが、そこには、経済学発展のおくれ、ような軍事拡張への巨大な界がある」と見えてよい。

自由	に巨大な軍備が持て る國民に言論の自由もあ る。それによって、その資本 主義社会は、今日見る如きの 経済的豊かさをもつてゐる。
陸地	地理
界人	のものと見なすことは ない。
貿易	強大な軍事力を背景 共、すでに、ソ連は ガニスタンや南イエ ル、中東、アフリカを それまでに、掌握する 冒險精神の振張りである。
潮流	世界百年

これ
自由
と願う
に庶ぜず、軍艦を以て
あしる過が眞面目
ら、西側としては
の点からいへば、
われらのそ
の点からいへば、
常に高
まらない
れわれ
軍船増
軍船増
れわれ
車輪も少
要やむを得
て行か
になれば、
世論もか
であ
拡に賛意を表すこと
う。そして、西側
もん連
争に応じたる限
には何を主張のメ
べきで、そ
いはばからりか
利益を
財力にあらずでな
かは、私の
に重圧をかけてい
はもやれど以上続
といふ限界点にソ
のあらざ
そ、今實は實面
致つ狂むじにば

田は軍縮
続けるな
経済力
まだまだ
行く余力
に、西側
復讐的な
もし必
うこと
議会も軍
とになろ
が軍拡競
り、ソ連
リットが
ともと敵
軍拡を
けえない
消費生活
は違す
うつたじ
の軍縮に
つる。や

つてくる。 共産圏十六カ国は、すべ て「自由でない国」に分類 されおれ、自由・人権が 抑止されていることは衆知 の事実であるが、それでも ユーロ・ボーランド、ハン ガリーはいずれも自由度二 五（（〇〇点満点で）とい うればかなり高い）を取 得している。ソ連、中国 は一七、ソ連、チャコ、ル ーマニア、キューバはいす れも八、その他の共産圏は すべて〇と、抑止に多少の 誤差はあるが、この共産圏	いざれにせよ、自由を抑 止する共産主義体制は、好 むと好まざると拘らず、間 最近の国際化の潮流の中で 二十年前、三十年前のように な閉鎖性を維持することが 困難となり、西側の人民大 衆の豊かで自由な生活の実 感を知る機会が多くなって くるのは自由であり、中國 は一七、ソ連、チャコ、ル ーマニア、キューバはいす れも八、その他の共産圏は すべて〇と、抑止に多少の 誤差はあるが、この共産圏	軍備の軍事力増大の潮流で 一方だけがレベルを下げる場合であ る。一方だけがレベルを下 げる、いわゆる一方的軍縮は、 均衡をくずし、却って侵略 勢力年比三・五倍増という 軍拡を続けてきた。そして に至る。したがって、軍縮 カ七八九〇ドル、日本四 〇ドル、ソ連二七六〇ドル である。アメリカはGN Pの五・六兆を国防費に使 用する。アメリカはGN PはわざかにGNP一 の二倍以下、これに対 するソ連は実にGNPの十数倍 である。	GNPの成長率も過去十五 年間をとてみると、自由 主義体制の側が断然優位に 立つおり、一九七六年の 人当たりGNPは、アメリカ カ七八九〇ドル、日本四 〇ドル、ソ連二七六〇ドル である。
---	--	---	--

